

# 令和4年度 事業報告

## 〔事業活動〕

令和4年3月24日（木）開催の理事会において承認を得た2022（令和4）年度事業計画に基づき各事業を推進した。その概要は以下のとおりである。

### 1 国際相互理解の促進

#### (1) 講演会、シンポジウム等の開催

##### ア 国際理解講演会等の開催

会員をはじめ道民の国際理解を深めるため、講演会を開催した。

日 時 2月20日（月） ハイブリッド開催

場 所 札幌ガーデンパレス 2階 丹頂の間

テーマ 「今考える避難民・難民・移民」

講 師 立命館大学 大学院 国際関係研究科  
教授・研究科長 嶋田 晴行 氏

参加者 61名 あわせてセミナーの様子をYoutubeで配信した。

後 援 北海道、北海道新聞社、毎日新聞社北海道支社

##### イ 北方圏講座の開催

北方圏諸国の産業経済や生活文化等に関する蓄積を学び、地域づくりに関する情報交換を図るため、関係機関と連携しセミナーを開催した。

###### ① 第1回 「フィンランドウィーク特別イベント」

日 時 5月31日（火）

場 所 札幌市民交流プラザ 3階 クリエイティブプラザ

テーマ 「フィンランドと北海道の交流と調和」

講 師 駐日フィンランド共和国大使館  
特命全権大使 ペッカ・オルパナ 氏

演 奏 カンテレとトンコリによる創作ユカラ  
ユニット「ポロ」 結城幸司氏、福本昌二氏、佐藤美津子氏

参加者 91名 あわせてセミナーの様子をYoutubeで配信した。

共 催／北海道フィンランド協会

後 援／在日フィンランド共和国大使館  
在札幌フィンランド共和国名誉領事館

###### ② 第2回 「駐日フィンランド大使講演会」

日 時 11月13日（日）

場 所 札幌ガーデンパレス 2階 丹頂の間

テーマ 「フィンランドの平等への旅」

講 師 駐日フィンランド共和国大使館  
大使 タンヤ・ヤースケライネン 氏

参加者 77名

共 催／北海道フィンランド協会

後 援／在日フィンランド共和国大使館  
在札幌フィンランド共和国名誉領事館  
公益財団法人 北海道女性協会

③ 第3回 「フィンランド独立記念日講演会」

日 時 11月23日 (水・祝)  
場 所 かでる2・7 7階 710室  
テーマ 「フィンランドの気候変動対策～カーボンニュートラル・カーボンネガティブに向けて～」  
講 師 前在フィンランド日本国大使館  
一等書記官 大杉 周作 氏  
参加者 33名  
共 催／北海道フィンランド協会  
後 援／在札幌フィンランド共和国名誉領事館

④ 第4回 「北極の島グリーンランド」

日 時 3月11日 (土)  
場 所 北海学園大学 豊平キャンパス7号館 D31  
テーマ 「気候変動×安全保障×人間社会」  
講 師 ①デンマーク国際問題研究所  
主席研究員 ウルリック・プラム・ガド (Ulric Pram Gad) 氏  
②グリーンランド大学  
助教 キヴィョック・ルヴストロム (Qivioq Lovstrom) 氏  
参加者 50名  
共 催／USPS科研費19K20514、ArCS II 国際政治課題  
協 力／北海学園大学法学部、北海道大学北極域研究センター

**ウ 北太平洋地域研究事業（国際セミナー等の開催）**

道内経済団体や交流関係団体、大学等と連携し、北東アジア等の政治経済・外交関係などをテーマとしてシンポジウムを開催した。

第11回 北海道で考える北東アジア国際情勢シンポジウム

日 時 2月6日 (月)  
形 式 オンライン  
テーマ 「日ロ漁業協定セミナー  
～ウクライナ戦争下における交渉のゆくえ～」

講 師  
報 告 者 北海学園大学経済学部 教授 濱田 武士 氏  
報 告 者 北海道機船漁業協同組合連合会 常務理事 原口 聖二 氏  
コメンテーター 北海道新聞社 編集委員 本田 良一 氏  
コメンテーター 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター  
教授 岩下 明裕 氏  
コーディネーター 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター  
教授 服部 倫卓 氏

参加者 約100名  
共 催／北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、NPO法人ロシア極東研  
協 力／北海道大学スラブ・ユーラシア研究拠点 (EES-SRC)  
「国際的な生存戦略研究プラットフォームの構築」プロジェクト

## (2) 国際関係情報の収集・提供

### ア 調査研究・資料収集事業

対外経済交流関係の各種事業への参画や調査・情報収集を行い、ホームページや「Hoppoken」誌上等で成果を発表した。

### イ 国際情報ネットワーク事業

ホームページを活用して国際交流等の情報や事業報告などをタイムリーに提供するとともにFacebookで主催事業等の告知を行い、広く周知に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下、オンラインを活用した会議、セミナー等を開催するため、特別会議室に整備(R2)した「オンライン会議システム」を活用した。

### ウ 年報・HOPPOKEN 特別号発行

HOPPOKEN 別冊を併載し、特集記事や事業報告などを掲載した。

9月に発行し、会員や関係団体、市町村等へ配付した。

### エ 「Hoppoken(北方圏)」誌の発行

会員をはじめとした道民に、国際理解の促進に資する情報や、国際交流等の取組に関する情報提供を目的に、年3回(うち1回別冊)、各1,200部発行した。

#### ① 192号 9月発行

- ・特集—新型コロナ「新薬創出国」 日本が突きつけられた敗北
- ・その他—「北海道フィンランドウィーク」を振り返って
  - マダガスカル共和国土のうを活用した道路維持管理研修

#### ② 193号 3月発行

- ・特集—「地球上で誰も話さない言葉～古代エジプト神聖文字を学んで」
- ・その他—北方圏講座「新フィンランド大使講演」
  - 「災害時多言語支援センター」の活動

#### ③ 別冊(年報に併載) 9月発行

- ・ウクライナ避難民への支援について
- ・北太平洋地域研究事業「米中対立と北東アジアへの影響～日本の外交を考える～」

### オ 国際情報発信事業

道内の多文化共生や国際交流・協力に関する取組などをホームページで紹介した。

## (3) 海外派遣研修

### ア 海外派遣事業

新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

### イ 高校生・世界の架け橋養成事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2、3年度中止となった「高校生・アジアの架け橋養成事業」と「北欧青年交流事業」について、事業目的である「アジアや北欧の国々への理解を深め、世界規模の課題の認識」を促すことを目指し、「世界の架け橋養成事業」として一本化し、オンラインによるプログラムを実施した。

高校生が、日本・北海道とアジア、北欧との結びつきや多文化共生、海外勤務のキャリアについて知見を得る機会を創出し、将来的に様々な分野で活躍できる人材の育成に寄与した。

- ・第1回 マレーシア編  
日 時 11月3日(木・祝)  
講 師 JICA マレーシア事務所 企画調査員 林 悦子 氏  
参加者 10名
- ・第2回 デンマーク編  
日 時 11月23日(水・祝)  
講 師 在デンマーク日本国大使館 専門調査員 カッスル・葉子 氏  
参加者 10名
- ・第3回 インドネシア編  
日 時 1月18日(水)  
講 師 JICA インドネシア事務所 企画調査員 井上 えりか 氏  
企画調査員 坂本 和樹 氏  
参加者 12名
- ・第4回 フィンランド編  
日 時 1月28日(土)  
講 師 北大北極域研究センター 准教授 ユハ・サウナワラ 氏  
ビジネス・フィンランド(東京) 副商務官 インカ リーサ・ハカラ 氏  
Turku 大学(フィンランド) 大学院生 パウリーナ 氏  
伊勢市国際交流員 ミラ 氏  
参加者 20名

## ウ 済州国際青少年フォーラム 2022

北海道と友好提携地域である韓国・済州特別自治道が主催する国際的な視野を持つ未来のグローバルリーダーの育成と青少年のネットワークづくりを目的としたフォーラムへ参加した(新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催)

日 時 11月11日(金)～11月13日(日)  
参加者 高校生4名(11カ国36地域161人の参加)  
研修会 事前研修2回、事後研修2回  
報告会 3月25日(土)

(道庁国際課及び駐札幌大韓民国総領事館と共催し「プチ・コリア DAY」として開催)

## (4) 多文化共生の推進

### ア 多文化共生ネットワーク連携推進協議会との連携

道内国際交流団体間ネットワークの連携強化に取り組むとともに、協働して多文化共生の実現に資する事業を実施した。

構成団体

(一財)北海道国際交流センター、室蘭工業大学国際交流センター、  
(一社)滝川国際交流協会、旭川市国際交流委員会、釧路国際交流の会、  
北見工業大学国際交流センター、十勝インターナショナル協会、  
留学生フレンドシップ、(一社)ニセコプロモーションボード、  
恵庭国際交流プラザ、石狩国際交流協会、江別市国際交流推進協議会  
北海道多文化共生 NET

#### ①オンライン会議 6月23日(木) 10団体19名

ハイエックが今年度予定している多文化共生事業について説明し、実施に向けて各構成団体の協力を要請した。

テーマ ・各団体における令和4年度の主な取り組みについて  
・令和4年度多文化共生に係る地域連携事業について

## イ 多文化共生の各種取組

道内各地域において外国人との共生に向けた環境づくりを一層推進するため、各種事業を実施した。

### ① 北海道原子力防災総合訓練への在住外国人の参加

北海道が実施した「北海道原子力防災訓練」の一環で、余市町の避難所にいる外国人避難者（見立て）への情報伝達、避難所対応等の訓練を行った（北海道委託事業）。

日 時 10月31日（月） 余市町福祉センター（避難所）、道庁本庁舎  
参加者 外国人11名、多文化共生多言語サポーター4名

### ② 「北海道多文化共生多言語サポーター」オンライン研修会

災害時における外国人支援やイベント支援をする「北海道多文化共生多言語サポーター」を対象に、災害時外国人支援にかかる最近のハイエックの動向の説明や、サポーター同士での話し合いを行った。

第1回 12月26日（月） 参加者 14名  
第2回 3月19日（日） 参加者 9名

### ③ 「北海道多文化共生キーパーソン・ネットワーク ステップアップ事業」

外国人住民と繋がりを持つキーパーソン候補人材27人を対象に、オンライン及び道内2地域において参集型研修会を実施した。

#### ・オンライン研修

日 時 12月21日（水）  
内 容 - 災害時外国人支援にかかる最近のハイエックの動向  
- 各キーパーソンによる近況報告

参加者 5名

#### ・参集型研修会（千歳市内）

日 時 1月21日（土） 千歳市防災学習交流センター『そなえーる』  
内 容 - 講演「災害時外国人支援におけるボランティアの役割と心得」  
（講師：（一財）ダイバーシティ研究所 代表理事 田村太郎 氏）  
- ワークショップ「避難所運営ゲーム北海道版（Doはぐ）」体験

参加者 5名

#### ・参集型研修会（釧路市内）

日 時 2月17日（金） 釧路市観光国際交流センター 研修室3  
内 容 - 災害時外国人支援にかかる最近のハイエックの動向  
- ワークショップ「避難所運営ゲーム北海道版（Doはぐ）」体験

参加者 7名

## ウ 北海道多文化共生アワード（表彰事業）

道内在住の外国人と道民がともに地域の発展や活性化に貢献できる社会を実現するため、人材育成、居住環境、防災、教育、地域づくりなどさまざまな分野において顕著な取組を行っている団体を表彰することとしたが、令和4年度は応募がなかった。

## エ 「北海道外国人相談センター」等の運営

「北海道外国人相談センター」を運営し、道内在住外国人等のさまざまな相談に対応した（北海道委託事業）。

体制：常勤4名～センター長、副センター長、主任相談員・相談員（英語）  
シフト17名～多言語相談員（英・中・韓・ベトナム・タガログ語・ウクライナ語）

対応言語：電話通訳システムを活用し、11カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タイ語、インドネシア語、タガログ語、ロシア語、ミャンマー語）に対応

開所時間：平日（午前）9：00～12：00（午後）13：00～17：00

ホームページ：<http://hiecc.or.jp/soudan>

対応SNS：Facebook、WeChat、Skype、LINE、KakaoTalk、WhatsApp、ほか

相談者数：2,009人

相談件数：2,492件

相談者の国籍：

国籍	人数	国籍	人数	国籍	人数
中国	152	ブラジル	2	モンゴル	1
台湾	8	ペルー	1	アフリカ諸国	60
韓国	30	タイ	32	欧米諸国（アメリカ、カナダ等）	483
フィリピン	112	ベトナム	160	オセアニア	39
インドネシア	17	ロシア	16	日本	281
ネパール	19	ウクライナ	78	その他（マレーシア、インド等）	148
スリランカ	22	カンボジア	4	不明	327
トルコ	6	ミャンマー	11	合計	2,009

主な相談内容：

分野	件数	分野	件数	分野	件数
入管手続 （更新、切替等）	499	出産・子育て	35	身分関係（結婚/DV等）	46
雇用・労働	167	教育（学校・大学等）	32	交通・運転免許	119
社会保険・年金	173	日本語学習	33	通訳・翻訳	214
税金	150	防災・災害	2	その他	747
医療	217	住宅	58	合計	2,492

① 移動相談会の開催 道内各振興局地域で移動相談会を全20回開催した。また、移動相談会に合わせ、外国人から関心の高い「年金」や「税金」等に関するテーマについてセミナーを開催した

後志総合振興局	倶知安町	6月26日（日）～	「起業」に関するセミナー
胆振総合振興局	室蘭市	7月2日（土）／苫小牧市	3日（日）
渡島総合振興局	北斗市	7月23日（土）／八雲町	24日（日）
石狩振興局	石狩市	10月1日（土）／江別市	10月16日（日）
根室振興局	中標津町	11月3日（日）	
空知総合振興局	滝川市	11月20日（日）	
日高振興局	浦河町	12月4日（日）～	「労働」に関するセミナー
釧路総合振興局	釧路市	12月17日（土）～	「税金」に関するセミナー
根室振興局	根室市	12月18日（日）	

オホーツク総合振興局	北見市	1月14日(土)～	「年金」に関するセミナー
	紋別市	1月15日(日)	
十勝総合振興局	帯広市	1月27日(金) /	28日(土)
後志総合振興局	倶知安町	2月9日(木)～	「年金」に関するセミナー
留萌振興局	留萌市	2月23日(木)	
上川総合振興局	東川町	3月17日(金)	
	富良野市	3月18日(土)	
宗谷総合振興局	稚内市	3月26日(日)	

② 休日相談会 移動相談会のほか、休日相談会を全9回開催した。

6月12日(日)	12月3日(土)
8月6日(土)	1月22日(日)
9月3日(土)	2月19日(日)
10月15日(土)	3月25日(土)
11月6日(日)	

③ ウクライナ情勢を踏まえ、昨年3月11日(金)に設置した「北海道ウクライナ関連ワンストップサポート窓口」において、シフト相談員を配置し、道内に避難しているウクライナ人の方々などからの相談対応を行った。

## オ ウクライナ避難民支援事業

① 日本語教育支援

道内に滞在している避難民に対し、生活する地域で孤立することがないように、日本語でコミュニケーション図れる機会を提供した。

11月から毎月第1～第3土曜日で開催

② 交流会・生活サポート事業

北海道で生活する上で必要な助言や相談対応、生活のサポート等を行った。

## カ 災害時外国人多言語支援事業

今後、外国人材など日本語が不得手な外国人居住者の増加が見込まれることから、災害時における多言語支援の取組を強化し、外国人が安心・安全に暮らせる環境づくりを行った。(北海道委託事業)

① 防災訓練等への参加/実施

・北海道原子力防災総合訓練への在住外国人の参加(再掲)

北海道が実施した「北海道原子力防災訓練」の一環で、余市町の避難所にいる外国人避難者(見立て)への情報伝達、避難所対応等の訓練を行った。

日時 10月31日(月) 余市町福祉センター(避難所)、道庁本庁舎

参加者 外国人11名、多文化共生多言語サポーター4名

・在住外国人向け防災教室・訓練

倶知安町 11月28日(月) 倶知安総合体育館 参加外国人6名

釧路市 2月17日(金) 釧路市防災センター 参加外国人22名

・災害時外国人対応力向上研修 上川総合振興局

特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会の高木副理事による講義の後、市町村職員等が避難所での外国人の受付体験を行った。

旭川市 1月30日(月) 上川総合振興局講堂

参加者 市町村職員等16名、多文化共生多言語サポーター2名、外国人5名

- ・災害時外国人支援センター設置・運営訓練 2月27日（月） ハイエック内  
広域災害が発生したとの想定で、道から災害時外国人支援センターの設置要請を受け、立上と運営の訓練を行った。

② 外国人支援の体制づくり

多文化共生ネットワーク連携推進協議会との連携を強化した。

③ 多言語支援センター設置マニュアルの改訂

## 2 国際交流の推進

### (1) 諸外国との各種交流の実施

#### ア 日中青年交流事業

中国黒竜江省との間で締結した青年交流協定に基づく交流は、新型コロナウイルスの影響により中止とした。

#### イ 日韓交流事業

韓国慶尚南道体育会との協定に基づき、高齢化社会に対応したローカルスポーツ「ミニバレー」による両地域の交流は、新型コロナウイルスの影響により中止とした。

#### ウ 南米ふるさと訪問団受入事業

北海道出身移住者子弟からなるパラグアイからの訪問団を受け入れ、父祖の地・北海道についての理解を深め、一層の友好親善に資するため、本道関係者との交流や文化施設の視察等を実施した。

受入期間 1月29日（日）～2月6日（月）

人数 6名

### (2) 留学生と道民との交流

#### ア 外国人留学生国際交流支援事業

北海道内の大学・大学院に在籍する外国人留学生の中から90名を「留学生サポーター」として選定し、母国の学生等に向けて北海道での留学生活に関する情報発信を行うことにより、本道への留学受入れを促進した（留学生サポーターには情報発信活動費として5万円を支給）。

・投稿件数 593件（ハイエックHPより閲覧可）

#### イ 外国人留学生受入促進事業

外国人留学生の受入れを促進するため、海外の関係機関や大学・学生等に対し、道内大学のプロモーションを行った。

① プロモーションサイトの運営 (<http://study-hokkaido.com>)

② 留学ガイドブックの作成、配付

③ 帰国留学生及び奨学金受給留学生向けメールマガジンの発行

帰国した外国人留学生等に対し、北海道の今の様子や就職など各種情報を提供するメールマガジン「ハイエックニュースレター」を発行し、本道への理解促進を図った（年3回）。



## ウ 留学生地域交流の実施

外国人留学生の北海道に対する理解の促進を図り、SNS 等により北海道の魅力を情報発信してもらうとともに地域住民との交流を推進するため、地域イベントへの参加や交流会を開催した。

「北海道留学生ふれあい交流 in いぶり」

日 時 11月12日(土)～13日(日)

場 所 白老町、壮瞥町、伊達市

参加者 留学生21名(16ヵ国・地域)

## (3) 海外移住者への支援

### ア 移住者支援事業

北海道出身移住者などで組織する道人会等の活動支援するため助成した(4団体)

〔ブラジル北海道文化福祉協会、在アルゼンチン北海道人会、  
全パラグアイ北海道人会連合会、北海道海外移住家族会〕

※サハリン道人会は諸事情により休止

### イ 移住者子弟留学生受入事業

南米圏交流を促進するため、北海道出身移住者の子弟を留学生として受け入れ、修学を支援した。

受 入 ブラジル 1名

就学先 北海道大学大学院農学研究院

## (4) 各種交流事業への助成

世界各地域との交流を促進し、北海道の生活文化や産業経済の発展に寄与するため、道内の交流団体等が実施する各種交流事業に助成した。

### 令和4年度補助実績

助成対象事業名	主催者	助成額 (千円)
日本シベリウス協会・北海道支部設立15周年記念 「アイノラのつどい Vol.23」 フィンランドと日本を結ぶ音楽交流	日本シベリウス協会北海道支部	200
ヨーロッパ空手セミナー	一般社団法人北海道極真武道会	300
計 2事業		500

## (5) 地域、諸団体との連携

### ア 地域連携ネットワーク事業

各地域や交流団体間の連携を促進するため、多文化共生ネットワーク協議会の構成団体と共催し多文化共生に関する取り組みを行った。

#### ① 第1回 「日本文化体験事業」

日 時 7月2日(土) アパホテル

参加者 13名

共 催 留学生フレンドシップ(室蘭市)

- ② 第2回 「在住外国人に対する日本体験事業」  
日 時 10月1日(土) 石狩市内  
参加者 31名  
共 催 NPO法人 石狩国際交流協会 (I. I. A)
- ③ 第3回 「たきかわ発見バスツアー」  
日 時 12月18日(土) 滝川市内  
参加者 31名  
共 催 一般社団法人 滝川国際交流協会
- ④ 第4回 「十勝在住外国人と企業の交流会」  
日 時 令和5年1月27日(金) とかちプラザ  
参加者 外国人11名、企業2社  
共 催 十勝インターナショナル協会
- ⑤ 第5回 「在住外国人と企業の交流会」  
日 時 令和5年2月5日(日) 釧路市内  
参加者 23名  
共 催 釧路国際交流の会

## イ 外国公館交流促進事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、総会を除く全ての行事を中止した。

- ・総会(書面決議) 提案:11月24日 全員同意確認:12月27日

## ウ 関係団体との連携による交流事業

- ① 全国中国語スピーチコンテスト北海道大会  
日 時 10月8日(土) かでの2.7・北3条広場  
共 催/北海道日中友好協会
- ② インターナショナルナイト  
45回を記念し彬子女王殿下が「海外で日本を学ぶ」をテーマとした記念講演を行った後、世界各国の留学生がそれぞれの国の歴史や文化、自然や社会、教育事情等について日本の高校生を対象にプレゼンテーションを行い、相互理解を促進する場として開催した。  
日 時 12月11日(日) かでの2.7、京王プラザホテル  
参加者 日本人197人、外国人29カ国35人  
共 催/北海道青少年科学文化財団
- ③ 国際交流「DAY」事業  
北海道と姉妹・友好提携地域とのより一層の交流拡大を図るため、北海道と共催して、各提携記念日等にそれぞれの地域の文化紹介イベントを開催した。
  - ・米国 ハワイ州(5月26日~5月31日 東急百貨店)
  - ・カナダ アルバータ州(9月16日~18日 ANAクラウンプラザホテル千歳)
  - ・タイ チェンマイ県(2月25日 札幌ドーム)
  - ・韓国(2月25日 札幌ドーム)
  - ※ 以下の地域を合同で実施 慶尚南道/ソウル特別市/釜山広域市/済州特別自治道
  - ・米国 マサチューセッツ州(中止)
  - ・ロシア サハリン州(中止)
  - ・中国 黒竜江省(中止)

#### ④ 国際交流定例講演会

北海道国際女性協会と共催し、定例講演会を開催した。

- ・第1回 「北海道インターナショナルスクールにおける国際教育」  
日 時 9月29日(木)  
参加者 35人
- ・第2回 「ウクライナの文化と暮らし—昔と今—」  
日 時 1月24日(火)  
参加者 18人
- ・第3回 「小さな町ならではの地域に根差した国際交流—ブナ北限の里・黒松内にて」  
日 時 3月16日(木)  
参加者 15人

### 3 国際協力の推進

#### (1) 開発途上国向けのJICA研修事業への参画

JICA 北海道国際センター（札幌）が実施する研修事業の一部を受託し、研修実施機関とのカリキュラムの調整や研修のコーディネートを行った。今年度前半は、新型コロナウイルスの影響により来日研修が中止となったことから、オンラインによる遠隔研修等を行った。10月以降に入国規制が緩和されたため、12月以降に実施した2件の研修は訪日研修を実施した。

期 間	研修コース名	人数
5月29日～7月15日	課題別（道路維持管理（E））※オンライン実施に加えてマダガスカル国にて在外補完研修実施（6月12日～28日）	6
8月5日～9月30日	課題別（上水道施設技術総合（B））※オンラインで実施	8
12月6日～12月16日	マリ国別研修「持続的発展のための地方行政強化」	11
1月26日～2月14日	フィリピン青年研修「高齢者支援・介護人材育成」	12
5月6日～3月31日	草の根「ネパール国ポカラ市給配水管理業務の体系化を目指した技術協力事業」	—

#### (2) 海外からの研修員受入

南米圏の北海道出身移住者の子弟を技術研修員として受け入れ、技術研修を行った。

受 入 2名（ブラジル1、アルゼンチン1）  
研修先 酪農学園大学農食環境学群  
株式会社ユニファイドエックス

#### 4 ハイエック後援事業

	実施日	事業名	主催団体
1	5/28～6/3	北海道フィンランドウィーク	駐日フィンランド大使館、ビジネスフィンランド、フィンランドセンター、在日フィンランド商工会議所
2	6/15～22	「障害者週間」国際親善交流特別演奏会 ウクライナ緊急人道支援 ポーランド避難民支援チャリティコンサート	日本音楽文化交流協会
3	7/29	2022年度「国際経済・ビジネスフォーラム」	北海道日米協会、在札幌米国総領事館、札幌商工会議所
4	8/27	生活に役立つ情報ラップブック作成講座	(一社) にほんごさぽーと北海道
5	9/25	第6回インターナショナルゴミ拾いビーチウォーク	(特活) 北海道海濱美化をすすめる会
6	10/21～23	第43回NHK杯カーリング選手権大会	同実行委員会
7	10/29～30	第34回ミニバレージャパンカップ2022in十勝	(一社) 全日本ミニバレー協会
8	11/2	「移民女性の妊娠・出産：留学生、技能実習生らの受け入れ担当者のためのオンラインセミナー」	科研費研究「移民女性とSDGs」プロジェクト
9	11/6	第26回冬迎祭	釧路国際交流の会
10	11/30～12/2	第38回寒地技術シンポジウム	(一社) 北海道開発技術センター
11	2/7～12	第64回旭川冬まつり	同実行委員会
12	2/11～12	第7回フィンランド一日大学	北海道フィンランド協会
13	2/19～24	第37回北方圏国際シンポジウム	同実行委員会
14	2/25～26	第34回昭和新山国際雪合戦	同実行委員会

## 〔管理部門〕

### 1 会員の状況

令和4年度においては、新規の加入が10件（個人会員3件、法人会員7件）、退会が26件（個人会員14件、法人等会員12件）あり、会員数は16減となった。

区 分		令和4年度 当初会員数	増 減			令和4年度末 会員数
			入会数	退会数	差引増減	
個人 会員	一般会員	82	2	5	△3	79
	学生等会員	1	0	1	△1	0
	主婦(夫)等会員	2	0	1	△1	1
	シニア会員	27	1	6	△5	22
	特別会員	3	0	1	△1	2
	個人会員計	115	3	14	△11	104
法人等会員		438	7	12	△5	433
合 計		553	10	26	△16	537

## 2 会議の開催

令和4年度の開催状況は次のとおり。

### (1) 理事会

#### ア 第1回理事会

令和4年5月20日(金) 13時30分～ オンラインにより開催

出席 理事総数25名のうち15名、監事2名のうち2名

内容 令和3年度事業報告を承認

令和3年度決算を承認

通常総会の招集を議決

#### イ 第2回理事会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで開催

令和4年6月20日(火) 13:30 ホテル札幌ガーデンパレス

出席 理事総数25名のうち16名、監事2名のうち2名

内容 会長、副会長、専務理事の選定

会長(代表理事) 辻 泰弘

副会長 笹原晶博、長野 実

副会長兼専務理事 竹花賢一

#### ウ 第3回理事会

令和5年3月27日(月) 13:30～ ホテル札幌ガーデンパレス

出席 理事総数25名のうち15名、監事2名のうち1名

内容 令和5年度事業計画及び予算を承認

予算の補正に関する専決処分を承認

顧問の委嘱を承認

新顧問 石塚 宗司 北海道開発局長

### (2) 総会

令和4年度通常総会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで開催

令和4年6月20日(月) 14:30～ ホテル札幌ガーデンパレス

出席 会員総数546のうち427(出席68、委任状出席359)

内容 令和3年度決算を承認

令和3年度事業報告を報告

令和4年度事業計画及び予算の理事会決定を報告

現役員の退任に伴う新たな理事の選任(5名)

新理事 板垣 博之(毎日新聞社北海道支社長)

水野 治(北海道経済連合会専務理事)

長野 実(北洋銀行取締役副頭取)

中村 智(北海道観光振興機構専務理事)

鶴井 亨(北海道文化放送代表取締役社長)

## 附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないため、作成しない。